

学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方針 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
で心豊かな児童を育成する。	【豊かな心を育む】 「豊かな心を育む」自他の命や気持ちを大切に、前向きな学校づくり	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」は、あいさつ運動や毎日の指導によって、子どもたちが継続的に意識できている。 学校目標の「時間・あいさつ」を徹底できるようにしたい。 子どもたちのよい姿をメッセージとともに写真で掲示することで、よい行いについて意識することができた。 学校保健委員会を通し、前向きな考え方に交換する方法を理解することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の実態を分析、評価の観点を明確にして手だてを打てるとうい。 挨拶運動や見守り隊をしている中で、子どもたちは十分挨拶はできていますと感ずる。 不安なことが多く心身ともに楽しく過ごしている子は少ないと思う中でがんばられていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動は、定期的に先生が当番制もしくは学年担当制で校門に立てるようにしていきたい。 学校目標の内容を、今月のめあてにうまく組み込んでいけるようにしたい。 ★子どもたちにあいさつの意味や価値を浸透させ、気持ちのよい場を自分がつくる意識をもてるように働きかける。
	【豊かな心を育む】 「豊かな心を育む」自他の命や気持ちを大切に、前向きな学校づくり	B					
できる確かな学力を育成する。	【確かな学力を育む】 「確かな学力を育む」自ら考え、自ら学ぶ態度を養うとともに活用できる確かな学力を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 単元との出会いを大切にすることで、子どものやってみたいという思いが高まった。 算数の数図ブロックや生活科の工作・栽培・調理・探検など体験を多く取り入れた学習ですすんで取り組む姿が見られた。 タブレットを活用し、動画を見るなど本物を知ったり、子どもたちと一緒に調べてみたりすることを通して、関心をもって学習に取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 力だめしのテストについての考え方を貰ってほしい。 タブレットを上手にとまどうことなく使いスムーズに授業ができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを生かして動画を活用したり、本物を見せたりすることで、より興味関心を広げる。 多くの情報の中から自分の知りたい情報を選択し、まとめる力をつけるために、本を活用して「読み取る力」につなげる取り組みも進める。 ★漢字や計算の定着を図るために、授業や小テストの取り組み方を検証していく。
	【確かな学力を育む】 「確かな学力を育む」自ら考え、自ら学ぶ態度を養うとともに活用できる確かな学力を育成する。	B					
なやかな心の育成と体力の向上を図る。	【なやかな心を育む】 「なやかな心を育む」挑戦しつづける経験を通して、強くしなやかな心の育成	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業では、カードを活用し、一人一人が自分の目標をもち、挑戦する姿が見られた。 道徳の時間の板書を掲示し、累積していくことで、子どもたちの学びの足跡を残し、常に振り返ることができた。 栄養教諭の話をもとに、バランスのよい食事を意識して日々生活することで、給食の残食が少なくなった。 GRを心の居場所にして登校できる児童が何人もいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> GRは学校での居場所としてよいと思う。 GRの活動は大変よいと思う。 「ピンチはチャンス」という考え方で進めていくのはよいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びのよさを体感できるように、引き続き、教師が外に出て声をかけていく。 食の大切さが更に感じられるように、引き続き配膳方法を工夫したり、「とよはし学校給食チャンネル」を視聴したりしていく。 栄養教諭による授業を計画的に取り入れる。 ★GRのよりよい運営について家庭とも連携をとってすすめる。
	【なやかな心を育む】 「なやかな心を育む」挑戦しつづける経験を通して、強くしなやかな心の育成	B					
協働・地域連携の充実を図る。	【協働・地域連携の充実を図る】 「協働・地域連携の充実を図る」地域・地域と連携し、協働・地域連携の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 校外での約束が守られないこともあり、家庭との価値観の共有や、情報共有そのものがスムーズにできるようになりたい。 地域教材やゲストティーチャーを取り入れ、子どもたちの意欲を高めることができた。 「ぐんぐんカード」を定期的に行ったことで、生活習慣を意識し見直すことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> A評価がつくことが素晴らしい。よい方向での継続をしてほしい。 花祭りの題材など地域教材を追究してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の中で、メディアとの共生をするためメディアに関する点検を行う。 メディアに関する出前講座など低学年から設けたい。 ★生活科のむかし遊びなど地域のお年寄りに来ていただくなど、地域の方と触れ合う場を積極的に取り入れる。
	【協働・地域連携の充実を図る】 「協働・地域連携の充実を図る」地域・地域と連携し、協働・地域連携の充実を図る。	B					
展開する。	【学校(教職員集団)の教育力向上】 「学校(教職員集団)の教育力向上」教師一人ひとりが持ち味を生かし、個に寄り添った教育活動を展開する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 実際の場面を想定したAEDの使用方法やアレルギー対応などの研修により、危機管理意識が高まった。 ケース会議により担任だけで抱え込むことなく、対応や支援方法を考えることができた。 学年の先生方が気づいたことをすぐに声をかけ合って、学年を運営することができた。 教科担任制を取り入れ、専門性を生かした。また、生徒指導についても、学年全体で学年の子どもたちを見守ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「階段に「走らない」ではなく「歩こうね」という言葉があまり優しさにあふれた環境づくりができていますと感ずる。 校長先生の「職員が同じ方向を向いて」という言葉に、リーダーとしての力を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、風通しのよい職場になるために、互いに声をかけ合って協力して仕事に取り組んでいく。 適正な勤務時間で働くことができるように、学年でできる仕事は一緒に取り組んだり、早く帰るような継続的な声かけをしたりする。 ★来年度も、学年間での情報共有と指導支援の方向性を統一し、担任全員で学年全体を見ていく。
	【学校(教職員集団)の教育力向上】 「学校(教職員集団)の教育力向上」教師一人ひとりが持ち味を生かし、個に寄り添った教育活動を展開する。	A					
	【学校(教職員集団)の教育力向上】 「学校(教職員集団)の教育力向上」教師一人ひとりが持ち味を生かし、個に寄り添った教育活動を展開する。	B					

【自己評価】 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価 【関係者評価】 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない